

1 笠岡市における孤独・孤立対策について

■ これまでの取組、課題、あるべき姿

- ひきこもり支援は、民生委員や本人・家族からの相談に対して、市職員や地域包括センター職員による家庭訪問を実施してきたが、地域の中でひきこもりへの理解が十分ではないことから、相談者はわずかであった
- 令和3年5月、ひきこもり相談専用ダイヤル「ささえ愛ほっとライン」を開設したが、電話相談や面談への心理的ハードルが高いと考えられ、市民がより相談しやすい方策と併せて地域へのつながりが必要と考えていた

2 笠岡市版孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの形成

■ プラットフォームの形成

- 既存の会議体**である笠岡市地域づくり連携会議を笠岡市の官民連携プラットフォームと位置づけ、さらに関係者を加えて設立する予定
- 当事業では15～30歳の市民（約5,200人）へ社会参加につながる取組を知らせる葉書を郵送。笠岡市の孤独・孤立対策専用ポータルへのリンクを記載し気づきや支援活動への参加を促す。PFは市、関係団体、住民関係者もつないで支援ニーズに対応していく

■ 参加団体の選出方法、参加打診の工夫等

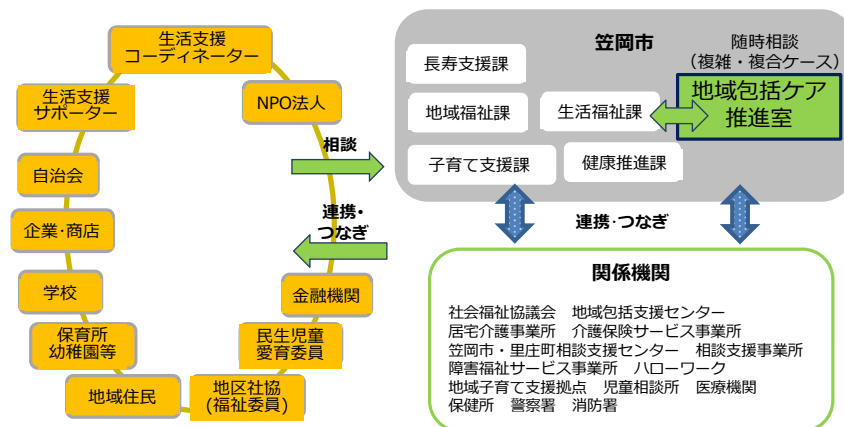
- 令和4年10月～12月：現状把握のためNPO等と協議
- 令和4年12月～令和5年2月：プラットフォームや市民に周知する活動に関してNPO等と協議を実施中
- 今後、市と見守り活動に関する協定を締結している企業へ声がけ予定

■ 官民連携PFが果たす役割

どの機関に相談があっても、市全体で受け止める相談体制を目指す

団体	役割
笠岡市	支援体制の実施主体，方向性の提示，体制整備
社会福祉協議会	生活支援コーディネーターの配置，支援体制のバックアップ
支援団体（NPO法人）	孤独・孤立対策への取組み
民間企業	笠岡市と見守り活動に関する協定を締結している企業が協力
その他関係者（地域包括支援センター、児童相談所、教育関係施設、住民関係者ほか）	課題を抱える方の発見、身近な支援の輪づくり、地域での支援が困難なケースを専門職へつなぐ機能、主体的な課題解決を試みる体制づくり

■ 官民連携プラットフォーム組織図イメージ



出典：笠岡市提供図に基づく

■ プラットフォーム形成に至るまでのステップ

STEP 1 関係NPOとの協議・共同作業

- プラットフォーム立ち上げに向け、関係NPOとの協議を複数回に渡り実施。
- 合わせて、本事業で実施する相談者向けのHPの作成についてもNPOと共同で内容面の検討を実施。

STEP 2 市民向けの案内葉書の発送

- 15歳以上30歳未満の全市民（約5,200人）に対し、上記HPの案内葉書を発送し、孤独・孤立の相談者、あるいは地域共生活動の担い手の掘り起こしを図る。（令和5年3月発送）

STEP 3 プラットフォーム立ち上げ

- 以上を行いながら、笠岡市では既存の「**笠岡市地域づくり連携会議**」にPF機能を持たせるため、令和5年2月に「笠岡市地域づくり連携会議」構成員に、孤独・孤立関係者を加え、PF設立を提案し承認を受ける。
- 合わせて、同3月に上記の会議体にあたる「笠岡市地域ケア会議」に報告予定（マスコミも入れて公開）。

■ プラットフォーム形成における工夫

- 笠岡市では孤独・孤立対策の中でも、**把握が難しい15～30歳の若い世代へのアプローチを強化**するため、これまで十分に対応できていなかった、ネット経由での相談受付を強化することに。
↓
- そのため、本事業でHPを制作。この際、**関係NPOとの共同作業を行う**ことで、HPの充実を図ると共に、関係機関間でのPF立ち上げの機運醸成も図った。
- また、HPの立ち上げにあたり、**HPのQRコードを添付した葉書を15歳以上30歳未満の全市民に発送**することで、課題となっていた若い世代へのアプローチを強化した。
 - また、単に孤独・孤立の相談者向けだけではなく、地域共生活動に関心のある方向けの案内も併せて行うことで、より幅広い層への喚起を図る。

■ 今後予定している取組（案）

- 既述の通り、「**笠岡市地域づくり連携会議**」にPF機能を持たせ、孤独・孤立に関する事業の推進を図っていく。
 - 笠岡市関係部署、関連行政機関、社会福祉協議会、民生委員、金融機関、NPO団体、COOP、社協支部の福祉委員、シルバー人材センター等、の構成員に加え、孤独・孤立については市内7つのNPOにもPFに参画してもらう。
 - 各団体で受けている相談内容を共有したり、取り扱っている中で対応が困難な事例について、市や他の団体で対応できないかといったように事例を共有・連携を図っていく。
 - また、PF関係者向けの勉強会なども実施していく予定。
- また、葉書×HPでアプローチを行った孤独・孤立の相談者向けの対応についても積極的に推進し、若年層の孤独・孤立で悩んでいる市民への対応も強化していく。

3 今後の展開

- 3月10日前後にHPをオープンすると共に、葉書による周知を開始。
- 令和5年3月16日に「笠岡市地域ケア会議」に報告。この際、マスコミにも公表し公にもものとする。
- 令和5年3月31日発行予定の広報紙にて、PF立ち上げを周知。

4 試行的事業の実施状況

事業名称	事業内容	目的・期待される効果	実施時期	発注先 (予算配分)
ホームページの作成	地域に孤独・孤立対策の情報を集約し、連絡窓口を見やすく配置する専用ポータルサイトの開設。相談もメールで受付	孤独・孤立対策の周知 相談窓口を見つけやすくする	2023.3 公開予定	丸井工文社 (682,000)
葉書の印刷・郵送	15～30歳の市民（約5,200人）へ笠岡市の地域の社会活動への参加を促す案内を圧着式はがきで発送し、孤独・孤立対策の取組や専用ポータルサイトへのリンクを記載した葉書を郵送することで、少しでも市の孤独・孤立対策を広め、相談者を増やす	孤独・孤立対策の周知 地域の社会活動への参加を促す（支援の必要な方、ボランティアに関心のある方の双方のニーズを発掘）	2023.3 発送予定	丸井工文社 (296,590) 郵送費 (297,819 ※税327,600) (株)ビーシーシー (データ抽出料) (27,500)
			計	(1,303,909)

15～30歳全市民向けに
送付するハガキ

あなたのための 相談場所

ひとりで悩みや不安を抱えていたら、いつでも相談してください。
誰かの力になりたい人には、あなたの力を待っている人がいます。
人と人が支え合い、あなたの生活がよりよいものになるように応援します。

ここからHP
へアクセス



相談窓口はこちら

(笠岡市相談窓口ホームページ)

<https://www.city.kasaoka.okayama.jp/soudan/index.html>

笠岡市

メール相談： sasaean@city.kasaoka.okayama.jp

電話相談：0865-63-8515 (ささえ愛・ほっとライン)

このはがきは、今の自分に悩みや不安を感じている方を応援する相談窓口をお知らせするため、
15歳～29歳の笠岡市民の皆様にお知らせしています。(2022/4/2時点)



(内閣府) 令和4年度地方版孤独・
孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業として実施しています

補記：ハガキの発送から約半月で
HPへのアクセス数268、新規相談者17名
という成果があった。



受付用HPイメージ



笠岡市 あなたのための相談場所

電話相談

相談内容	TEL	受付時間	名称(リンク)
・悩みや不安を抱えていて寝れない ・孤独・孤立で不安を抱えている	0865-63-8515	平日8時30分～16時30分	笠岡市ささえ愛ほっとライン
・いじめられてつらかったり、友達 や家族、先生のことで不安や悩み がある	0865-63-4955	平日9時00分～17時00分	認定NPO法人ハーモニーネット未来
・貧困、子育て、家族の介護などで 悩んでいる	0865-63-0911	24時間・365日	NPO法人笠岡を元気にする会
2012年から「駆け込み寺」的に生活相 談を行っています。ひきこもり支 援、出所後の居住就職、その他生活 困窮者支援やフードバンクなど、幅 広いご相談に応じています。	0865-63-0911	24時間・365日	NPO法人笠岡を元気にする会